



## 『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

### 第3号(2008年3月21日)

#### 「『新・国際優良企業』とは」

今回は『新・国際優良企業』についてお話させていただきます。

この『新・国際優良企業』という言葉はスパークスが作った言葉なので、一般的に認知された経済用語とかそういう類のものではありません。簡単に言うと、今日の日本の自動車メーカーや精密機械メーカーまた電気機器メーカーなどのようなグローバルで活躍している国際優良企業へ、今後育つ可能性が高いと思われる企業のことです。そして日本にはこの『新・国際優良企業』の候補となりえる企業が数多く存在すると考えています。

もともと日本は世界第二位のGDPと人口約1億2千万人という、世界的に見ても恵まれた国内市場があるがゆえに、多くの日本企業は海外進出を考えず、国内だけで事業を行なっても十分に利益が上るといったビジネスモデルを構築していました。

しかし、国内には多くの同業他社が存在し、世界でも最も品質に厳しいと言われていた消費者を商売相手にしなければならないため、高い技術力や品質を持つ企業でなければ勝ち残ることはできません。つまり、日本で高いシェアを持つ企業はそれだけ高い技術力や品質、またブランド力を兼ね備えている可能性が高いと言えるのです。よくアメリカ企業は株主に育てられると言われるそうですが、日本企業はまさに消費者に育てられているということが言えます。

そして、日本である程度シェアを獲得した企業は、今度は世界市場に進出することを考えるわけですが、いくら優れた技術や品質を持つ企業であっても、当初は初期投資のコストを吸収できず、海外部門が赤字になるケースがほとんどです。

しかしながら、過去に海外進出を果たした企業を見てみると、海外の売上高比率が約30%を超えるくらいの水準になってくると、多くの企業で海外部門が利益に貢献し始めます。

こうした企業は、そこから世界市場でも競争を勝ち抜き、グローバルなブランドを構築し、そして新しい国際優良企業へと飛躍を遂げることができると考えています。

スパークスは長年の日本株調査の経験を活かし、海外でのビジネスがこれから大きく花開き、グローバルなブランドを構築してゆく企業を発掘し投資していきます。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。